

KISC

財団法人 가고しま産業支援センター
Kagoshima Industry Support Center

創業や経営革新に
取り組むあなたを応援します

11月号

November 2011



今月の表紙

シラスを活かして 産業おこしに挑戦!

株式会社 プリンシプル
代表取締役 東 和朗

<企業概要>

所在地：鹿児島市鴨池1丁目17番8号

創業：平成19年3月

従業員数：3名

TEL：099-258-3006

FAX：099-258-3106

E-mail：purin@future.ocn.ne.jp

今月の表紙は、平成21年10月に『普通シラスから製造した高強度シラスバルーン「マグマバブルス」の開発と販路開拓』で国の地域資源活用事業計画に認定された「株式会社プリンシプル」代表取締役社長 東和朗 さんです。

株式会社プリンシプルは「新たな未来へ対応した戦略的な産業おこし」をテーマに掲げ、南九州に大量に存在するシラスを活用し、シラス応用製品の研究開発・製造販売を事業化しています。整粒するだけで高品位化が図れる普通シラスの特徴に着目、平成19年に鹿児島県と「普通シラスの発泡実験と用途開発」に関する共同研究契約を締結し、研究開発に着手されました。

普通シラスの乾燥と粒径選別を行う自動粒径選別装置を開発、バ



【 マグマバブルス 】



【 マグマバブルス製造装置 】

ルーン製造装置と連結して整粒シラスの選別と回収を同時に行い、微砂の焼成発泡過程を経ることで「マグマバブルス(高強度シラスバルーン)」の製造に成功しました。

今後は、マグマバブルスを軽量骨材の原料として提供するとともに、軽量・高強度という特性を活かした、様々な工業製品の軽量・断熱ファイラーとして提供したいとこのことです。

また、シラスコンクリートは、シラス細骨材に起因するコスト増加等の課題により普及に至っていないことから、かごしま産業支援センターの平成23年度研究開発助成事業の認定を受け、現有装置の生産能力増大による低コスト製造技術確立に取り組みられています。

CONTENTS

- 02 今月の表紙
- 03 この人に聞く
- 04 平成23年度鹿児島県経営品質賞受賞企業決定
- 06 女性経営者登場
- 07 ベンチャープラザ鹿児島「二水会」 ⑩
- 08 お役立ち情報 IT支援企業紹介
- 10 鹿児島県工業技術センター紹介 ③
- 11 がんばる進出企業
- 12 平成23年度第2回ラボツアー開催
- 13 第2回鹿児島県企業・留学生交流セミナー
- 14 カイゼン活動表彰式
- 15 Information

この人に聞く!

意志あれば道あり



株式会社鹿児島頭脳センター
代表取締役社長 中村末廣
(元：ソニー執行役副社長)

私は、800年以上続いたといわれた貿易、半農半漁などを生業としていた、今は無き、指宿市の田良村（昭和17年に海軍航空隊基地となる）の生まれであります。

1959年4月、ソニー入社以来、長きにわたり創業者の井深さん、盛田さんや先輩方から直接間接の薫陶を受けながら、思い切り仕事をいたしました。

長らく郷里鹿児島を離れておりましたが、2007年から3年間、鹿児島県の要請で企業誘致アドバイザーを務め、昨年より鹿児島頭脳センター社長に就任しております。私の経験、知見が何らかの形で皆様のお役に立つ場面があるとするならば、望外の喜びです。

さて、私のソニーでの仕事はトランジスターラジオの設計で始まりましたが、一番長く関わったのはテレビ事業の経営でした。その中でも、イギリスでの工場経営、ドイツ・スペインの工場をも統括する現地欧州TV事業部長を務めた1980年からの10年間は、生涯忘れられない経験となっております。

当時、ストライキの後遺症に悩まされたイギリスの工場の人たちの人心を一つにまとめるにはどうするか悩みました。そこで、工場の最優先課題を“1に品質、2に品質・・・5に品質”他の事は一切忘れろと目標を“品質”一本に絞り込み、徹底的な改善活動を続けました。数年後気が付けば、既に日本の工場の品質レベルを追い越しておりました。生産性など他の多くの指標でも私たちは優れた成績を示し、従業員、地域コミュニティー、メディアをあげて、これを誇り喜びました。更に、速やかに市場の変化に対応すべくイギリス・ドイツのエンジニアを中心にした技術開発、商品設計の体制を作り上げました。これで地産地消の精神で地域と共に成長するソニーのポリシー“グローバルローライゼーション”を体現し全欧州のセールスの方たちもこれに呼応し、意気に燃えて記録的に売り上げを伸ばしました。

お陰さまで、数回のエリザベス女王賞を頂くと同時に、マーケットシェアは1.9%から約20%へと欧州No.1のフィリップスを抜いて、名実ともに欧州のトップの座につくことができました。これは赴任当時から私の抱いていた“夢”の実現でもありました。

事業の大中小個人に関係なく、また時代を問わず、企業の目的は“何をやりたいか”“どのようにやるか”の2つが問われています。私は、これらは全て“夢”から始まると思います、“夢”（願望と置き換えてもよい）は、強く持ち続けると実現したいという強い“意思”に変わっていくように思えます。意思があるところには、必ず道が開けてきます。

かくして、「意思あれば道あり」が、いつしか、私の座右の銘になりました。どんなに小さな夢でも、夢は“夢”です。

ところで、あなたの夢は何でしょうか？

機会があれば、KISC（かごしま産業支援センター）に関係する皆さまともお話をしてみたいと思ひながら、御挨拶とさせていただきます。

平成23年度

鹿児島県経営品質賞

受賞企業決定!

「鹿児島県経営品質賞」は、「顧客本位に基づく卓越した業績を生み出す経営の仕組み」を追求し、実践している企業を表彰することで、県内企業の経営品質向上活動への取り組みを促進し、本県産業界の活性化を図ることを目的として、平成16年度に当センターが創設した表彰制度です。

「鹿児島県経営品質賞」は、(公財)日本生産性本部が実施する「日本経営品質賞」と同等の審査基準に沿った審査と判定委員会での審議を経て、受賞企業と賞の区分が決定されます。

平成23年度は、給水装置関連器具メーカーの「株式会社九州タブチ」(霧島市)が賞制度の創設以来、初となる知事賞「大賞」を受賞されましたので御紹介いたします。

《知事賞「大賞」受賞企業》 株式会社九州タブチ



＜鶴ヶ野社長＞ ＜桑野会長＞

＜企業概要＞

企業名 株式会社九州タブチ
 代表者 代表取締役会長 桑野 正敬
 代表取締役社長 鶴ヶ野 未央
 所在地 霧島市国分敷根120番地
 創業 昭和45年
 資本金 50,000千円
 従業員数 178名
 事業内容 給水装置関連器具の製造
 TEL 0995-45-1523
 FAX 0995-45-6433



＜西山理事長あいさつ＞

10月12日(水)に鹿児島市のホテルで開催された「平成23年度鹿児島県経営品質賞表彰式」には100名を上回る方々の御参加をいただき、知事賞「大賞」受賞にふさわしい式典となりました。当日は、当センター西山芳久理事長のあいさつに続いて柳本直行判定委員長(公財)日本生産性本部経営品質センター長)から表彰経緯の説明がありました。

その後、白橋大信鹿児島県商工労働水産部長並びに藤田幸二鹿児島県経営品質協議会代表幹事から、九州タブチ社の「継続的な経営品質向上活動への取り組み」や「地域への貢献活動」に対する熱意と努力に敬意を表するとともに、今後も本県産業界の牽引役として地域産業の発展に寄与してほしいとの祝辞が述べられました。

知事賞「大賞」の受賞理由

九州タブチ社は、経営幹部が強いリーダーシップを発揮して、社員の自主・自立の企業風土の醸成を図っています。

そして、社員が高いモチベーションを保ちながら、自主的に生産改革活動に取り組むことができるといふ仕組みを展開するとともに、組織横断的な協力体制が常にとられている状況にあります。

更に、地域活動への参画など、社会への貢献活動を通じて、社員の自己成長を促しています。

こうした結果、社員・顧客の満足度が向上し、財務体質の改善が図られていることが高く評価され、今回の受賞となりました。

なお、詳細は次のとおりです。



＜白橋部長より知事賞「大賞」授与＞

自主・自立の企業風土を実現した 経営幹部の強いリーダーシップ

経営幹部の強いリーダーシップの発揮により、社員が思い切ったチャレンジする自由闊達な風土と現場の改善力を高める環境が創造されています。

また、社員の経営への参画意識や自己成長を促すとともに、お客様の視点で「考動（考えて行動する）」する文化を育み、生産改革活動の原動力になっています。

さらに、社内の生産改革活動（経済活動）と社会貢献活動など（非経済活動）との相乗効果が生まれ、社員及び顧客満足度も向上し、最終的には財務内容の改善につながっています。

社員が自主的に推進する全社を あげたタブチ生産改革活動の展開

現場で自由闊達に知恵を出し合い改善を検討する「自主研活動」を核に、社員が高いモチベーションで生産改革活動に取り組めるよう、全社をあげて強力にサポートする仕組みが展開されており、多くの成果に結び付いています。

例えば、社員の自主的提案により、金型・治工具の設計製作を全て内製化し、生産準備リードタイムの大幅な短縮を実現するとともに、2種類の材料を一つのラインで生産できる

製造プロセスの実現など「独自技術により一貫した製造工程」を構築しています。

また、この「自主研活動」を核とした生産改革活動により、従来の生産方式を一新し、工程の整流化・工程集約（セル化）・見える化・多能工化を実現し、大幅な生産リードタイムの短縮や在庫低減、コストダウンを可能にし、競争力を高めています。

開かれた経営による気づきの誘発

お客様、マスコミなどの工場見学にも積極的に対応するとともに、各学校からの工場実習、IE大会での発表など社外に向けた活動を積極的に展開しています。

また、身体障害者授産施設への支援・貢献活動として作業訓練を積極的に行いながら、障害を持つ方々に社会復帰の場（仕事の場）を提供しています。

さらに、ビジネスパートナーに対しても四半期ごとの年度方針の説明を行うとともに日常的な技術指導を行うなど壁のない関係を構築しています。

このような社会に対して開かれた経営は、自ずと外部からの刺激を受けやすい環境を作り、社員の気づきを誘発しています。

常態化した協働の仕組みによる 組織横断的な協力関係

組織横断的な「自主研活動」を核とした生産改革活動を通して、組織の壁を超えた協働の仕組みが常態化し、協力することが当たり前という意識が社員に根付いています。

例えば、繁忙時の応援、生産性の向上に向けたスループット会計の導入、経営企画部門のワンポイントレッスン資料、総務部門作成の社内報、飲み物カード等、基幹部門の成功を助ける支援部門の取組みが随所に実施され、それが受け入れられています。

このような協働関係は、生産改革活動を通じて、親会社に対しても展開され、グループ内の協働関係強化にも結び付いています。

桑野会長の受賞スピーチ

今回の受賞は、当社の継続的な革新活動の通過点と考えておりますが、社員の皆さんが10年以上、本当に努力して頑張ってきた成果ですので非常に嬉しく思っております。

平成12年から「トヨタ生産方式」と「経営品質向上活動」に取り組んでまいりましたが、相互に共通する考え方（顧客本位・独自能力・社員重視・社会との調和）があると感じており、気持ちの上では同じものと捉えております。

今年6月に社長を退任いたしました。今後は、鶴ヶ野社長が九州タブチの『動機付けと変革（イノベーション）』に全力を挙げてくれることを確信しております。



＜知事賞「大賞」受賞記念撮影＞



＜受賞のスピーチをする桑野会長＞

女性経営者登場!

本場英国も認めた
鹿児島産紅茶



薩摩英国館

館長 田中 京子

南九州市知覧町郡13746-4

Tel 0993-83-3963

Fax 0993-83-1012

URL <http://www.satsuma-eikokukan.jp>

薩摩英国館を開館して

代々、大阪の中心部近くで育っていた私にとって、田舎は憧れでした。昭和42年に知覧の南部へ、内科医として赴任する夫と共に移りました。夫の仕事を手伝いながら、五人の子育てに多忙な日々を送っていました。お産以外で床に臥すこともなく、四十代後半を迎えました。娘のイギリス留学を機にご縁が重なり、「英国側から見た幕末薩摩」を中心としたミュージアム「薩摩英国館」を開館することとなりました。来年は二十周年を迎えます。この二十年は、バブルの崩壊、阪神大震災、同時多発テロ、リーマンショック、東北大震災と、高度経済成長



【夢ふうき】

GREATE TASTE AWARD

紅茶部門金賞受賞

の中で生きてきた我々の生き方を考え直さなければならぬ、大きな出来事の連続でした。それは、まるでバブルに踊る人間を尻目に、自然は着々と、人間の住みづらい環境を作っているかのようでした。

べにふうきとの出会い

そんな頃、日本紅茶協会のティーインストラクター研修で培った私の五感に、衝撃を与えた「べにふうき」という紅茶品種に出会いました。農業経験はゼロでしたが、茶樹を植え、育て、製茶し、紅茶の淹れ方講習会も開催し、随分と「べにふうき」ファンが増えました。そこで、当園で育



【薩摩英国館】

て作り上げた「べにふうき」の紅茶を、「夢ふうき」として商品化したところ、英国のグレート・テースト・アワードで思わぬ金賞を受賞しました。これまでも、英国から輸入している紅茶の種類は、九州で一番多いと、福岡方面からも来館を頂いておりましたが、**英国の紅茶部門で日本から始めての金賞受賞**との報道が相次ぎ、問い合わせ、来館者ともに急激に増え、夢ふうきは瞬く間に完売となりました。

安心安全な農産物を作る喜び

新しい茶畑を求め探し歩きました。が、農業の近代化で、手摘みの完全無農薬を求める私達の希望に合う土地は、求めることが出来なかつた。山を開墾して少しずつ面積を増やしていきました。土が肥えているからでしょうか。猪が土の中のみみずを求めて、茶樹を掘り起こします。一年に相当数の欠損がでますが、それにも負けず大きくなった茶樹からは、いい紅茶がで、**今年も四回目の金賞**を頂きました。手摘みですから、大量には作れませんが、安心・安全な農産物を作る喜びを、次世代の若者達にもつないでいきたいと、孫達と茶摘みをしたり、中・高・大学の茶園を作ったり、製茶指導等のお手伝いもさせて頂きながら、美味しい紅茶作りを、今日も汗を流しています。

桜島の魅力を 「母」目線で商品化

有限会社さくらじま旬彩館
代表取締役 中島 孝子

鹿児島市桜島横山町1722-48
TEL:099-293-3387
FAX:099-293-3381
E-mail: sakurajima.sk@ninus.ocn.ne.jp



発表する中島代表取締役

ベンチャープラザ
コーナー ⑦⑤
第48回ベンチャープラザ
鹿児島（二水会）

発表内容

〈企業紹介〉

桜島の降灰の影響で商品価値のない農産物（桜島小みかん、桜島大根）や規格外の農産物を加工し、付加価値のある特産品（ドレッシング、グラッセ、ジャム）として製造・販売しております。

〈商品開発のきっかけ〉

既存商品である小みかんだレッシングの売上が年々鈍化傾向にある事や二層分離による見栄えの問題、また桜島小みかんの果皮、果肉に含まれる機能性成分に関するデータが極めて少ない事があり、桜島小みかんの新商品開発研究会を立ち上げました。この研究会での調査・研究を通じて得られた結果をもとに、有効な機能性成分を多く含む高品質なドレッシングの開発に取り組み事にしました。

〈商品の特徴〉

桜島小みかんの青いうちに間引かれる大量の廃棄みかん「摘果みかん」に着目し、この青切り小みかんを利用した新しい食品開発を目指すとしました。これまで明らかにされなかった青切り小みかんの特性や加工方法について、（財）かごしま産業支援センターの平成21年度重点業種研究開発

支援事業に係る助成金を得て、鹿児島大学、鹿児島純心女子大学、鹿児島県工業技術センター、鹿児島県農産加工研究指導センターとの連携を図りまさに産学官からなる研究開発となりました。

桜島小みかんの発育毎の調査・研究を行ったところ、生産者が摘果作業を行う時期の青切り小みかんにはノビレチン、タンゲレチン、ヘスペリジン等のフラボノイド成分が最も多く含まれている事が判明し、これまで利用されていなかった果皮・果肉の全てを利用するという環境に配慮したゼロエミッションも目指して開発を進めました。また、青切り小みかんの風味と味覚を生かしオイルには桜



小みかんだレッシング



島特産の椿油を使用し、隠し味には鹿児島島の焼酎を使う等原料にこだわって桜島の自然から生まれた健康的で高品質なドレッシングが完成いたしました。

今後の発表後の成果・感想

二水会で発表させて頂き、販路拡大・事業提携先拡大への協力をお願いさせて頂きました。質疑応答では、商品価格の御指摘や今後の販売戦略についてのアドバイスなども頂く事ができ大変有り難く思いました。

その後、新商品開発の講演依頼やこの事業で開発した商品という事で大変注目されるようになり、販売開始後年間六千本ものドレッシングを売り上げる事が出来ました。

今後の展望

商品の品質を常に維持するとともに商談会などにも積極的に参加してPR活動に力を注ぎます。また、研究開発事業の経験を生かした商品開発や地域資源の活用にも取り組み、桜島の農業振興と地域の活性化に寄与していきたいと考えております。

「1」支援企業紹介

今月号は「ネットショップを開設したい」「インターネットで売り上げを伸ばしたい」といった相談に対応するEC(電子商取引)コーディネーター、マーケティングコーディネーターの支援事例を紹介します。

■ネットショップの売上を伸ばしたい ～有限会社松山

有限会社松山は、奄美大島の奄美市名瀬末広町に洋菓子店とパン工房を、笠利町にレストラン「奄美きよら海工房」をもち、今年10月には鹿児島市上荒田に5店舗目がオープンしました。

相談があったのは平成21年7月、「ネットショップの売上を伸ばすためのアドバイスをしてほしい」とのことでした。

■ネットショップの現状

ネットショップでは、収穫したてのサトウキビを使った手作り黒糖やジャム製品などに力を入れて販売していました。しかしなが

ら、売上は多い時で月2万円ほど、月数千円のことも多く、ネットショップの更新作業を委託している業者へ支払う運営費(月5万円)を超えることすらできていないとのことでした。また、売上が伸びていけないことからネットショップへの訪問者数などのデータも見るのがなく、ブログなどでの情報発信も滞っているとのことでした。

■問題点の調査と把握

まず、「どこに問題があるのか」を調査するため、ネットショップへの訪問者数や訪問の日時、どのようなキーワードで検索しているのか等のデータを精査することになりました。これを「アクセス解析」といいます。これは、「訪問者の数が少ないのか」「訪問者数に対して購入されている割合が少ないのか」「どのような言葉に興味を持って訪問されているのか」などの問題点を把握し、改善策を決めていくためです。

訪問者数を見てみると、4、5月は100件を下回っていましたが、6、7月は120件ほどで増加傾向にありました。この時期は皆既日食があった影響ではないかと思われま



ネットショップの画面

訪問者数は100件前後と多くはありませんでしたが、訪問者に対する購入者の割合が、4月から7月まで訪問者数の増加にかかわらず10%前後と高い値を示していました。これを「転換率」や「コンバージョンレート」と言い、通常は商材にもよりますが1%～3%前後と言われています。

また4、5月は「黒糖キャラメル」が多く、6、7月は「アイスキャンディー」と、季節によって異なる商品が売れていることもわかりました。



奄美きよら海工房(奄美市笠利町)

社名 有限会社 松山
 代表者 松山 竹一
 業務内容 洋菓子、パンの製造販売
 レストラン運営
 所在地 (本店) 奄美市名瀬末広町5-3
 電話 0997-52-7345
 F A X 0997-54-3025

ネットショップ <http://kyora-umi.com/>
 ブログ <http://amamisweet.seesaa.net/>

■集客対策(検索サイト対応)

訪問者数を増加させる方法は数多くありますが、その中でも最も基本的な手段の一つである**検索エンジン最適化(SEO)**を行うことにしました。これはヤフーやグーグルなどの検索サイトから検索されやすくなること、検索結果で目につきやすい上位に表示されるようにする対策です。

そのために、ブログを定期的に更新してもらおうことにしました。これは検索されるための情報の量を増やすとともに、情報の鮮度(新しさを高めるためです。また商品ページの記事の量を増やすことや、取引先に依頼し、リンクを張ってもらうなどの改善もお願いしました。



奄美黒糖ショコラ

■テレビや雑誌に取り上げられた!

このような改善に取組み始めていたところ、日本航空機内紙に「黒糖ロールケーキ」が掲載されたり、また、テレビでは「黒糖キャラメル」が紹介されるなど、訪問者数が月に4千件〜5千件ほどに急激に伸び、製造や配送が間に合わない程の受注を得ることができました。

■少しずつの積み重ね

もちろん、このような良いことばかりが続いたわけではありません。メディアで紹介された反響は1, 2カ月ほどで終息し、訪問者数は100件前後と元の状況に戻ってしまいました。また、ブログの更新も日々の業務が多忙なこともあり、継続することが困難な状況でした。それでも、少しずつ改善を進めていきました。

一つは、製作者に任せていた更新作業やアクセス解析なども自社で行えるように、人材教育や担当者の雇用を行いました。

また製作者と話し合い、季節やイベントに合わせたページを新規に作成するようにしました。

他にも鹿児島県特産品コンク

ルに出品し取扱商品の商品の知名度を高めたり、インターネット上の口コミサイトなどへの掲載など様々な取り組みを地道に行ってきました。

■3年間の改善の結果とこれから

このような改善が積み重なった結果、昨年5月には月400〜600件ほどに訪問者数が増え、今年10月時点で売上を月間12万円ほどまで伸ばすことができました。

松山社長は「制作にかかった費用などを考えれば、まだまだ売上を伸ばしていかなければならないし、今後の売上の柱に育て上げていきたい」と話しておられます。これからも地理的に不利な条件下の奄美大島島から遠く離れた本土の消費者

へ奄美ならではの手作り商品を届けるためにネットショップに力を注いでいかれるとのことでした。

■ネットショップの相談対応について

「ネットショップを始めたい」「ネットショップの流通・広告などについて知りたい」「売上げの伸び悩みの対策を助言して欲しい」

といった相談に対応するため、ECコーディネーター、マーケティングコーディネーターがインターネットを活用したビジネスの「始め方」や「改善ポイント」をアドバイスいたします。

ホームページをもっと

活用しませんか?

かごしま産業支援センターでは、7名のIT・EC等の専門家が、県内中小企業の皆様のホームページ活用を無料で支援します。

各号に掲載された支援事例をご参考にしていただければ幸いです。

ご相談があればお気軽にご連絡ください。

◆連絡先

電話 099-219-1275

FAX 099-219-1279

メール kisc@po.kric.or.jp

URL <http://www.kric.or.jp/>

鹿児島県工業技術センター紹介③

県内企業の「技術的拠りどころ」

県工業技術センター

第3回目の今回は技術支援から依頼分析と設備使用について紹介します。

1 依頼分析・設備使用

当センターは、企業の要望に応じて「依頼分析」と「設備使用」を行っています。

依頼分析は県内企業からの依頼で、原材料あるいは製品などの試験・分析・検査測定を行い、成績書を発行しています。(事前に連絡のうえ、依頼サンプルを持ってきていただき申請して下さい。)年間2,500件ほどの利用があり、有料で実施しています。

設備使用は各種の加工機械・工作機械などの機器を企業の皆さんに開放し、利用していただいております。(事前に連絡のうえ、当センターに來所して申請していただくこととなります。)年間2,400〜3,500時間ほどの利用があり、有料で実施しています。

(表1)

表1 依頼分析・設備使用の利用実績

| | H20年度 | H21年度 | H22年度 |
|-----------|-------|-------|-------|
| 依頼分析 (件) | 2,779 | 2,656 | 2,381 |
| 設備使用 (時間) | 3,533 | 2,961 | 2,380 |



霧島市隼人町小田1445-1
 電話：0995-43-5111
 FAX：0995-64-2111



写真2 塩水噴霧試験機

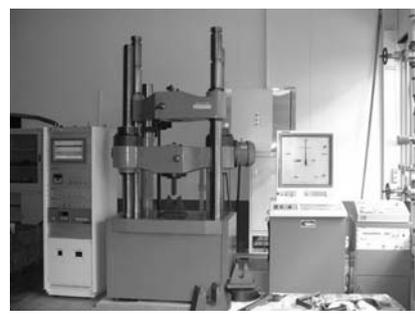


写真1 油圧万能材料試験機

2 依頼分析の主な項目

依頼が多い項目としては次の試験(分析)があります。

- ① 曲げ試験(油圧万能材料試験機「写真1」で金属材料等の曲げ試験を行います。)
- ② 赤外吸収スペクトル測定(F-TIR)で高分子や有機物などの成分確認ができます。)
- ③ 金属成分分析(EPMA等で金属やセラミック成分の分析を行います。)
- ④ 塩水噴霧試験「写真2」(金属材料等の腐食試験を行います。)

3 設備使用の主な機器

よく利用される設備として次の設備(機器)があります。

- ① 超微粉砕分級装置「写真3」(シラスや無機材料を微粉砕できます。)
- ② 電磁環境測定室「写真4」電子機器から発生する電磁ノイズを測定する電波暗室です。)
- ③ レーザ加工機「写真5」(木竹材料の精密切断ができます。)

当センターは、県内企業の要望に応えながら今後も依頼分析や設備使用を行ってまいりますので、お気軽にご相談下さい。

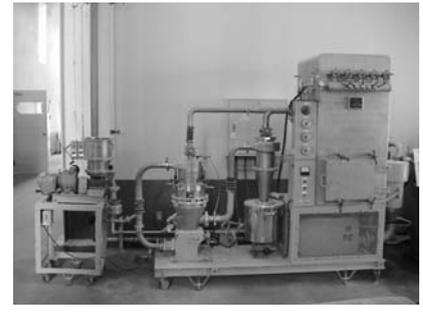


写真3 超微粉砕分級装置



写真4 電磁環境測定室



写真5 レーザ加工機

がんばる進出企業

アサダメッシュ株式会社

■会社概要

アサダメッシュ株式会社は、エレクトロニクス関連のスクリーン印刷用高精度金属メッシュの分野で、現在国内シェア70%、世界的に見ても業界5社のニッチ分野にあつてトップクオリティを誇るリーディングメーカーである。創業は昭和15年。発祥の地である大阪府松原市に本社を置き、鹿児島他、中国蘇州市に製造拠点を設けている。



鹿児島工場

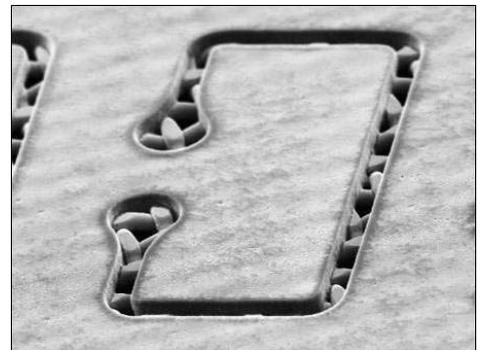
従業員数はグループ全体で現在217名を数え、うち125名が鹿児島工場勤務、全員地元採用である。この鹿児島工場は、総生産量の85%を担う同社の中核製造拠点である。

■鹿児島進出の理由

鹿児島工場の開設は昭和49年。今年で37年目を迎える。

大阪における人材確保の難しさから地元の商工会議所を通じて、薩摩郡祁答院町を浅田社長が視察に訪れたのははじまりである。環境の良さと地元の人柄の良さ、労働力確保の容易さから立地を決断し、廃校となった中学校の木造校舎に設備を据え付けて稼働を始めた。

その後、第1から第6まで工場を順次増設し、現在、次世代のメッシュ製造工程を実現するべく最新鋭の第7工場が建設中であり、今年12月中旬の竣工を予定している。これが完成すれば生産能力は現状の1.4倍となる。



ファインパターン

MS640メッシュ 線径 15ミクロン ライン幅 25ミクロン
倍率は 3000倍

■歴史背景と特徴

大阪の「河内木綿（かわちもめん）」の織物産業が同社のルーツである。創業家の浅田家は染と織の呉服屋であり、細く紡いだ木綿糸を使って繊細な織物を織ることを専門としていた。

これが高精度金属メッシュメーカーとして今も続く同社の技術的特徴であり、直径11μmという髪の毛の1/10程度のステンレスワイヤを使って、1mmに30本以上の線を配列するという織物としては世界最高精度の金属メッシュの開発は業界を席巻するに至った。

高精度のステンレススクリーンは、太陽電池において集光した光を電気に換える電極の他、タッチ

パネル用の電極やコンデンサーチップの高積層電極形成に用いられているスクリーン印刷技術に必要不可欠であり、今日のエレクトロニクス業界を牽引している。同社は、業界最先端をいく金属メッシュをもって、鹿児島から全世界へ発信し、オンリーワン企業を目指している。

アサダメッシュ株式会社

代表者 代表取締役 浅田 稔
所在地 本社 大阪府松原市新堂4丁目23番地の7
工場 鹿児島県薩摩川内市祁答院町黒木6165番地
TEL 本社072-334-0551/工場0996-55-0204
FAX 本社072-333-1299/工場0996-55-1253
URL <http://www.asada-mesh.co.jp>

平成23年度 第2回ラボツアー開催

8月23日(火)、鹿児島純心女子大学と鹿児島女子短期大学の2大学でラボツアーを開催しました。

ラボツアーは、大学等が保有する研究シーズを県内中小企業に紹介することを目的に、平成22年度より「産学官連携サポーター設置事業」の一環として行っています。

平成23年度第2回目となる今回は、県内の食品加工工業など19社24名の申込があり、大学・行政等を含め合計48名に参加していただきました。



鹿児島純心女子大学
キャンパス見学

◆鹿児島純心女子大学◆ 看護栄養学部 健康栄養学科 中野隆之教授

「食品・食品残渣及び未利用資源の機能性を重視した有効利用」

「食べ物と健康」に関する研究フィールドでは、食品に含まれる成分を化学分析や機器分析で評価し、食品汚染、品質管理に役立っているという説明や、動物や各種培養細胞等を用いた評価やヒトを用いた臨床試験(研究倫理委員会承認)による評価などの説明がありました。

また、実際に商品化された食品サンプルを試食しながら産学官連携の事例紹介があり、参加者一同、熱心に耳を傾けました。

「桑の葉の活用」「紅山芋の優位性の検討」「ねじめびわ茶の成分分析と機能性の解析」、その他、「ウニ未使用部分から機能性成分の抽出」、「プロトン冷凍によるキビナゴの栄養評価とキビナゴと利用食品の開発」等、14件の事例紹介がありました。

◆鹿児島女子短期大学◆ 生活科学科 食物栄養学専攻 山崎歌織准教授

「味噌漬によるカツオ肉の保存延長および食味保存効果について」

カツオを味噌漬けすることで、軟らかくまた保存性が良くなることが低温細菌数の変化等により示されました。味噌の成分がカツオに移行する等、具体的な実験結果に基づき説明がありました。参加者からはショウガを添加した場合や、こうじ菌による発酵途中の効果等について熱心な質問がありました。

生活科学科 食物栄養学専攻 吉元誠教授

「鹿児島の食材を活用した機能性研究と加工・調理」

サツマイモ茎葉のポリフェノール



鹿児島女子短期大学
施設見学



鹿児島女子短期大学
講演風景

ル抽出物に新規薬剤の原料として利用可能性ができたという説明がありました。その他にも、食品素材を新規に加工・利用するだけでなく未利用部分や焼酎粕など加工副産物の有効利用を積極的に研究されており、具体的な説明が多数ありました。参加者から鹿児島の焼酎粕やデンプン粕の利用について質問があり、今後の展開に繋がる大変有意義な講演でした。

二つの大学をバスで移動するという初の試みでしたが、両大学のご協力で滞りなく実施できました。「両大学が地域食材について熱心に取り組む姿勢に感銘を受けた」、「共同研究や技術指導を受けた」などの声がありました。当センターの産学官連携課では、今年度中にと2回のラボツアーを予定しております。皆様方のご参加をお待ちしております。

第2回「鹿児島県 企業・留学生交流セミナー」

県内製造業のアジア等海外への事業展開を支援し、留学生との相互理解を深める事を目的として、平成23年10月22日(土)に「鹿児島県企業・留学生交流セミナー」が開催されました。(主催：鹿児島県 運営：ネイチャリング・プロジェクト(NPO法人) 本セミナーには、県内企業8社10名、留学生は中国、台湾、韓国、マレーシア、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、パキスタン、シリア、イギリスの計11の国と地域から28名並びに大学等関係機関から18名、合計56名に参加していただき、活気溢れる会となりました。

◇基調講演

「高度外国人材の積極採用で推進する中小企業の海外展開」

本多機工株式会社

代表取締役 龍造寺 健介氏

本多機工株式会社は福岡県嘉麻市に本拠を置く、創業60年の産業用ポンプ専門の受注生産メーカーで、世界50カ国以上に様々な特殊ポンプを納入しています。

龍造寺社長は、「日本のものづくりは世界でまだ十分通用する。」



本多機工株式会社
代表取締役 龍造寺 健介氏

九州はアジアの玄関口という好立地を生かして、アジアと一体となって成長できる。日本の歴史はいつの時代も九州から変わってきた。日本経済、産業界の復活も九州の中小企業から始めよう!」と述べられました。また、「九州企業の99.8%が中小企業であり、多くがグローバル化に関して悩んでいる。言葉の壁なしに海外との関係を強化できる留学生は貴重な人材であり、企業は外国籍人材の採用で国際競争力を高めることができる。」と語り、九州の大学を卒業後同社で活躍する外国人社員について紹介されました。

◇講演 「グローバル人材の活用と課題」

日本有機株式会社
代表取締役会長 川崎 暢義氏

川崎会長は、同社での外国籍人材採用の事例をあげ、留学生が日本企業に就職するにあたっての心構えについて、「日本語に磨きをかけ、日本文化への理解を深める努力をすること」と述べられました。

また、留学生を受け入れる企業には、「留学生を特別扱いせず、他の社員と同様に接すること」と助言されました。



日本有機株式会社
代表取締役会長 川崎 暢義氏

◇ワークショップ&交流会

5つのグループに分かれ、留学生の母国と日本での仕事に対する考え方の違いについて、また企業

が留学生に期待することや、どのような人材が求められているかについて意見交換を行い、相互理解を深めました。



ワークショップ&交流会

◇参加者の感想

留学生

「県内にどのような企業があるのか知ることができてよかった。」

「日本で就職するイメージが具体的に理解できた。」

「日本企業のニーズが聞けて、就職先の選択肢が広がった。」

企業

「留学生を採用することで社内に新しい風を吹き込めるのでは。」

「多様な留学生がグローバル化促進の鍵となる可能性に期待したい。」

「熱心で前向きな考え方を持つ採用したい留学生がいた。」

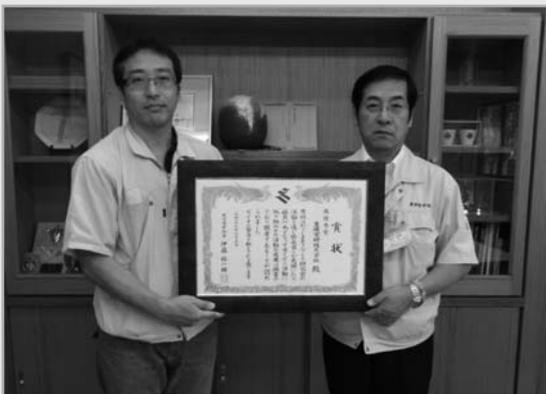
「カイゼン活動表彰式」

が開催されました

鹿児島県とかごしまモノづくり推進協議会は、自動車・電子・新成長産業の振興を図ることを目的に、企業の新商品などの開発能力の向上や新たなビジネスチャンスの拡大を図りながら、会員企業の人材育成、技術力向上、販路開拓などに取り組むために「カイゼン活動」を実施しています。

活動期間3年を経て、カイゼン活動に成果をあげた豊瑛電研株式会社が鹿児島県知事表彰を受けられました。また、株式会社トヨタ車体研究所と小林清氏（元財かごしま産業支援センターの総括コーディネーター）が、鹿児島県知事感謝状を授与されました。

鹿児島県知事賞 最優秀賞



豊瑛電研株式会社

- ・平成20年度から取り組んだ企業25社の中で最もカイゼン活動の成果が顕著であると認められました。
- ・トップ自ら先頭に立ち、改善活動に取り組む意気込み及び妥協しない活動は他の模範となりました。

感謝状



株式会社トヨタ車体研究所

- ・社自らが地域貢献活動を大きく掲げ、官民一体の活動に率先して取り組んでいます。
- ・卓越した見識のもと企業のカイゼン活動の指導へ尽力し産業の振興に貢献されました。



小林 清氏

（元財かごしま産業支援センター総括コーディネーター）

- ・県内製造業企業のカイゼン活動に本県ではじめて実践的なトヨタ生産方式を導入され、普及と定着に努力されました。
- ・専門的見解による適切な指導により企業の生産効率の向上を実現し、またモノづくり並びに人材の育成を行い産業の振興に貢献されました。

鹿児島県取引情報交換面談会

～新規取引先の開拓にご活用ください～

当センターでは、発注企業と本県中小企業による個別商談会を県外で開催するとともに、県単独の商談会を鹿児島市内で開催し、新規取引先の開拓を支援しています。

県内・外の発注企業と県内受注企業が一堂に会し、取引及び技術に関する情報交換を行うことにより、企業間相互の理解を深めるとともに新たな取引を創出し、本県中小企業の受注機会の拡大と技術革新の進展及び経営の安定、雇用の創出に資することを目的として開催します。

【開催日時】平成24年2月7日(火) 13:30～19:00

(面談会・交流懇親会)

【場 所】

ホテルウェルビューかごしま 2階「潮騒の間」

鹿児島市与次郎2丁目4番25号

【参加企業】 発注企業30社 受注企業60社(予定)

【対象業種】 一般機械・金属・電気・電子関連企業など

【主 催】

ビジネスマッチング協議会(参加受注企業で構成)

(財)かごしま産業支援センター

【お問い合わせ先】

(財)かごしま産業支援センター ビジネス支援課

TEL: 099-219-1274

FAX: 099-219-1279

(※ 参加申し込みについては、当センター ホームページでご確認ください。)



(取引情報交換面談会)

弁護士移動相談会のご案内

～企業間取引に係るトラブルや悩み相談(無料)～

国は、中小企業対策の大きな柱の一つに「下請適正取引の徹底」を掲げており、(財)全国中小企業取引振興協会は、平成20年4月、中小企業庁からの委託を受け「下請適正取引推進センター」を置き、全国に「下請かけこみ寺」を設置しました。

当センターでも平成20年度から「下請かけこみ寺」を設置し、この下請かけこみ寺事業の一環として、毎年「弁護士移動相談会」を開催しています。

この弁護士移動相談会は、下請事業者と親事業者間のトラブルや、取引上の様々な悩みや相談事に、法律的な立場から適切なアドバイスを行い、トラブルの未然防止や迅速な問題解決に役立つ事を目的として開催するものです。

相談は無料で秘密は厳守します。お気軽にご相談ください。

【開催日時】平成23年12月9日(金) 13:00～16:00

【場 所】川辺町商工会館 会議室 南九州市川辺町平山6978

電話: 0993-56-0247

【相談弁護士】大岩本 将司弁護士 (染川法律事務所)

【相談対象者】指宿市・南九州市・南さつま市・枕崎市の製造業者、中小企業者等

【相談内容】企業間取引に係るトラブルや悩み相談(無料)

【申込期限】平成23年12月2日(金)

【お問い合わせ先】(財)かごしま産業支援センター ビジネス支援課

TEL: 099-219-1274

FAX: 099-219-1279

中小企業等人材高度化育成事業について

県からの受託事業として、地域の将来を担う中小企業等の人材育成、レベルアップを図るため、地域の中小企業等が抱える課題や必要としている研修等を調査し、その結果を踏まえて新たな施設内研修（かごしま企業力研鑽工房）及び施設外研修（ワークショップ宅配便）を実施しています（受講料は無料）。

【活動内容】



ニーズについてヒアリング
(任意の企業様へ)



研修内容検討
企画

人的資源の創造と支援

（ 聞くだけの研修ではなく、
参加型の研修となっています。 ）



ご希望の講座をお届け！



データベース

かごしま企業力研鑽工房

施設内12講座
(23年度)

施設内研修実施内容

【階層別教育】

若手、中堅、管理者、経営マインド

【業務スキル・技術】

労働安全、コーチング、プレゼンテーション、精密測定、メンタルヘルス、食品衛生管理、段取り力、問題解決力

ワークショップ宅配便

施設外10講座
(23年度)

施設外研修実施内容

【階層別教育】

若手、中堅社員

【業務スキル・技術】

労働安全、メンタルヘルス、5Sカイゼン、被覆アーク溶接技術

【企業訪問実績】

南九州市、日置市、志布志市、出水市、薩摩川内市、鹿屋市、鹿児島市、他

社員教育養成、生産管理、技術系、行政機関・大学等、安全衛生の5分野を掲載（随時更新）

【受講生の声】



パワーアップ！若手社員



演習！精密測定



解説！労働安全

- ◆ 座学ではなく、実践的なところがよかった。とても勉強になった。
- ◆ グループ討議が多く、同じ悩みをかかえた異業種の方々とのコミュニケーションもとれ、自分自身に役立つ講座だった。
- ◆ 普段は作業ばかりで、問題を意識して話し合ったりすることがなかったので、良い機会になった。

お問い合わせ 【上野原ビジネスプラザ】 TEL:0995(45)3511 FAX:0995(48)5270

情報KISC 11月号

発行者：財団法人かごしま産業支援センター
〒892-0821 鹿児島市名山町9-1 鹿児島県産業会館2F

TEL 099-219-1270 (代表)
FAX 099-219-1279
E-mail kisc@po.kric.or.jp
URL http://www.kric.or.jp